

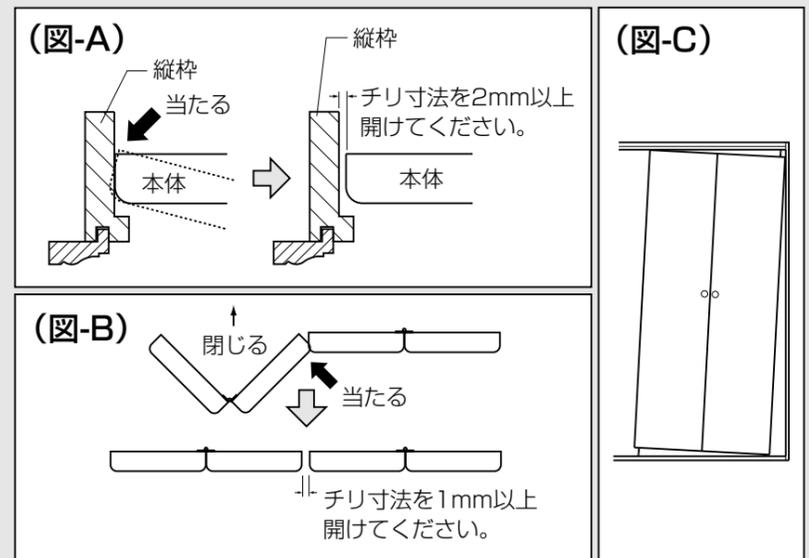
■施工される方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者が中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 本体を取付けた後、開閉して下記項目を点検してください。該当する項目がある場合、必ず建付け調整をしてください。本体が枠から外れやすくなり、ケガや故障の原因となります。
 - ・本体の上下軸ピボットの軸がピボット受けに納まっているか？
 - ・本体の吊元側が縦枠に当たっていないか？ (図-A)
 - ・本体の戸先側同士が当たっていないか？ (図-B)
 - ・ピボット受けの位置調整ナットがしっかり締まっているか？
 - ・本体を極端に斜めに取付けていないか？ (図-C)
 - ・開閉がスムーズに行えるか？開閉が重くないか？
 - ・枠と本体とのねじれはないか？
 - ・開閉時に異常な音が発生していないか？
- 本体を閉める際は、本体の折れ曲がり部分に手をはさまないようにしてください。
- 本体へのもたれ掛かりは扉がはずれ、転倒しケガの原因になりますので、もたれ掛からないようにしてください。
- 本体の把手にぶらさがったり重量をかけないでください。本体が転倒してケガをしたり、把手が破損するおそれがあります。



■施工上のおお願い

- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂下がり・ゆがみなどの原因となります。
- 枠を取付ける際、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時には必ず接着剤（現場手配）を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F★★★★」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品は下荷重方式のため、床面で重量を受けますので、本体重量に耐える床面仕上げにしてください。（表-1）
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 運搬・加工の際は、キズ付けないように取扱ってください。又、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。反り・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材（含水率20%以下）を使用してください。湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- かい木は合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損するおそれがあります。

(表-1)

間口	本体重量
3尺間口	20kg
4.5尺間口	40kg
6尺間口	50kg

■部品・部材の明細

■部材の明細

折れ戸本体	折れ戸用枠	折れ戸用下枠
<p>●クローゼット本体</p>	<p>●上枠</p> <p>●上レール</p> <p>●縦枠 (2本)</p>	<p>●下レール</p> <p>●下枠</p> <p>又は</p> <p>●埋込下枠</p> <p>ケーシングセット (ケーシングタイプのみ)</p> <p>ケーシング材 (上用)</p> <p>ケーシング材 (縦用)</p>

■本体用部品セット

部品名称	把手セット (ねじ付)	軸ピボット (上)	軸ピボット (下)	ガイドピボット (上)・(下)	調整スパナ
呼称					
全機種	1	1	1	2	1

■枠用部品セット

部品名称	皿小ねじ M4×50 (上枠・縦枠組立て用)	皿タッピンねじ φ4×50 頭部シート色塗装 (上枠・縦用躯体取付け用)	皿タッピンねじ φ4×50 (上枠躯体取付け用)	下部ピボット受け	穴埋めシールシート
呼称					
ノンケーシングセット	0720 0723	※14	-	1	1
	0820 0823	4	※14	1	1
	1220 1223	4	※16	2	1
	1320 1323	4	※16	2	1
	1620 1623	4	※17	2	1
ケーシングセット	0720 0723	※12	2	1	-
	0820 0823	4	※12	1	-
	1220 1223	4	※12	2	-
	1320 1323	4	※12	2	-
	1620 1623	4	※12	2	-
1820 1823	4	※12	5	2	-

※予備用4本含む

■下枠用部品セット

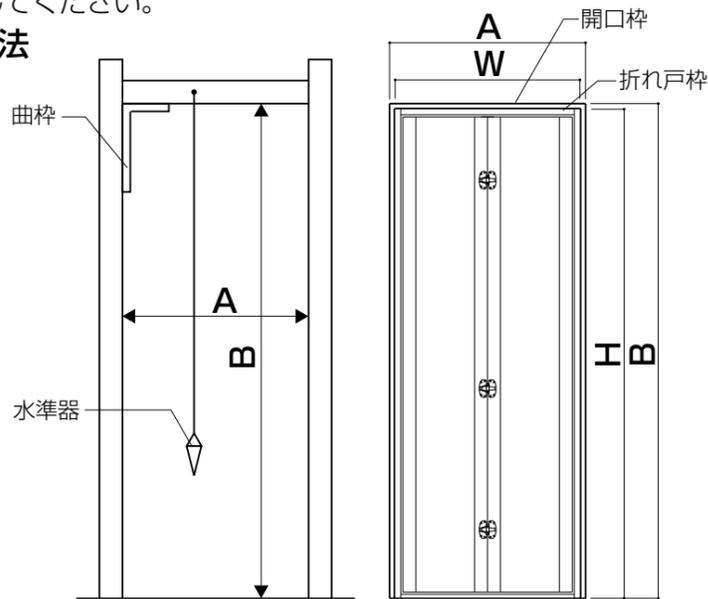
部品名称	皿小ねじM4×50 (下枠組立て用)	皿タッピンねじφ3.5×20 (枠取付け用)	下枠ピース
薄下枠W07~W08			
薄下枠W12~W18	4	2	-
埋込下枠W07~W18	4	3	-
	-	3	2

■開口部の確認

※開口部の水平・垂直を確認してください。
 ※開口部寸法が右記寸法になっていることを確認してください。

開口寸法A	製品寸法W+10mm
開口寸法B	製品寸法H+5mm

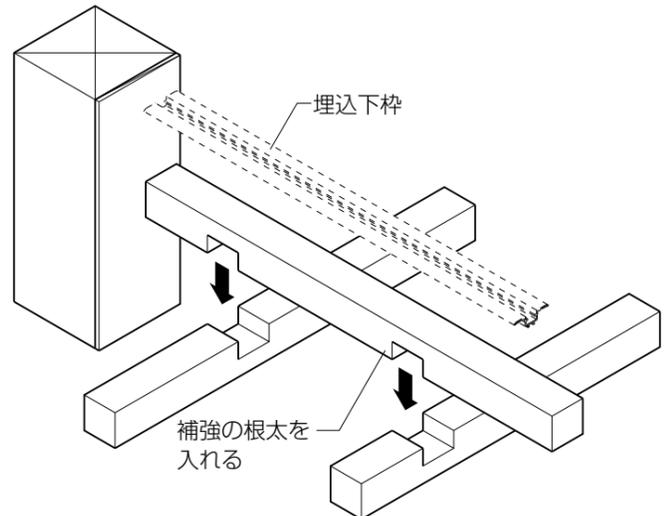
●開口寸法



■床の張り方

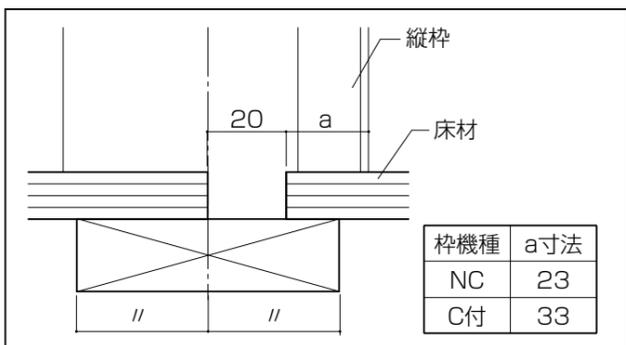
■下枠下地の確認

●枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や本体開閉不具合の原因となります。



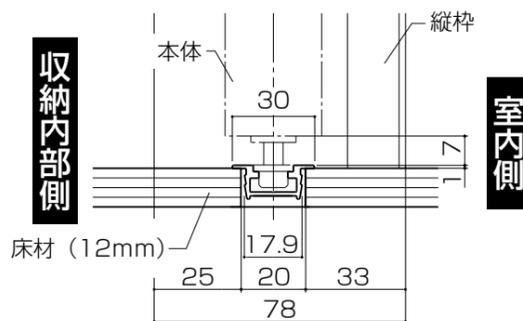
■床張り位置【埋込下枠を使用する場合】

※床材は、柱芯（建具芯）より引込み側に20mmあけて張ってください。柱芯と建具芯が合っていない場合は、縦枠端部よりの寸法内側に入った所に20mmあけて張ってください。

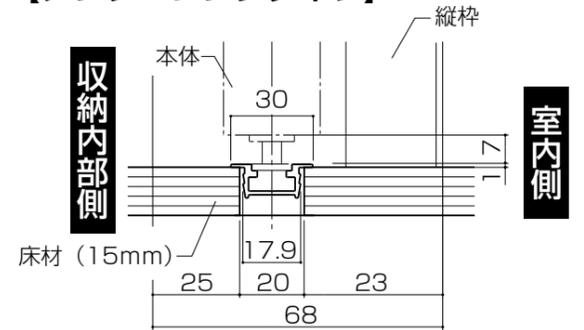


お願い
 ※床材は必ず上図の位置に張込んでください。床材の開口寸法が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。

【ケーシング付きタイプ】

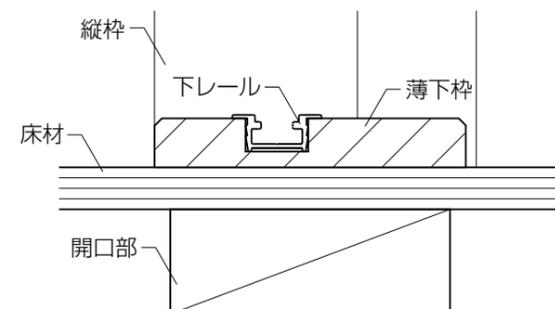


【ノンケーシングタイプ】



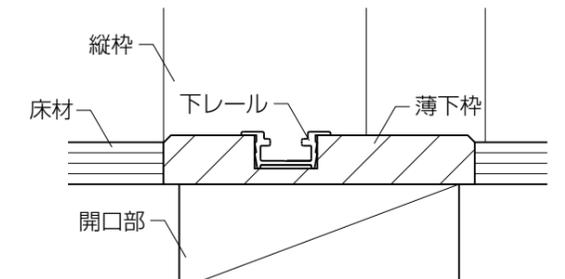
【薄下枠を使用する場合(床載せ納まり)】

●床材を張ってから枠を取付けてください。



【床後張り(枠先付け)の場合】

●枠取付け後、縦枠・薄下枠にそって床材を張ってください。

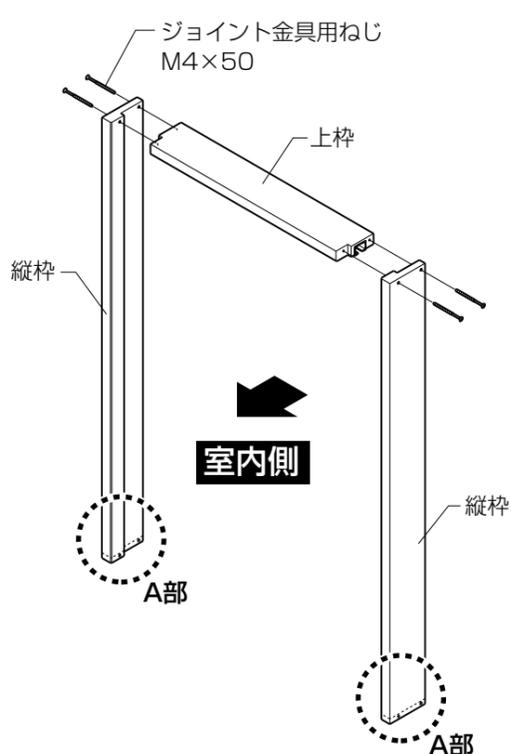


■取付け詳細

1 枠の組立て

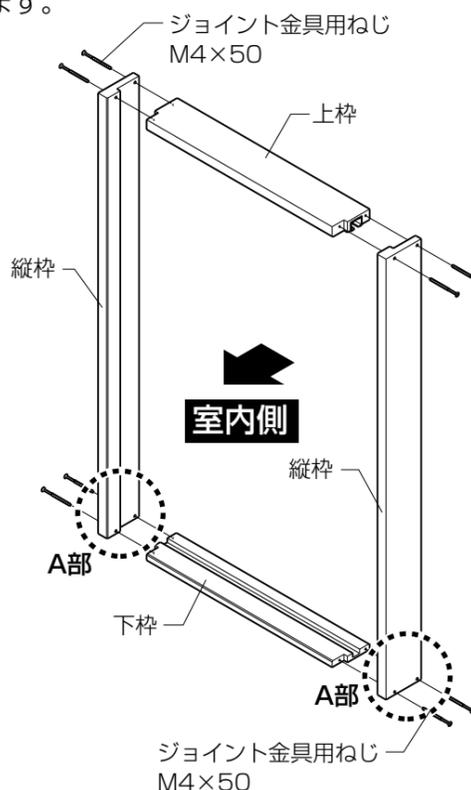
【埋込下枠を使用する場合】

●縦枠下部(A部詳細図中斜線部)を切断してください。
 ●下図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。



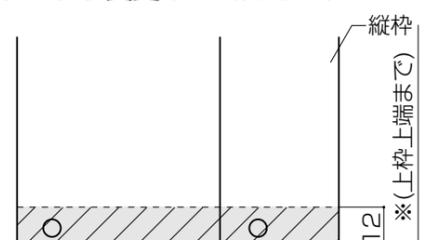
【薄下枠を使用する場合】

※縦枠下部(A部)は切断せずに使用してください。
 ●下図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。



■A部詳細図

※この寸法は床上面(F.L.)から上枠上端までの寸法を、
 H23=2306
 H20=2023
 にする時の寸法値です。現場の納まりにより変更してください。



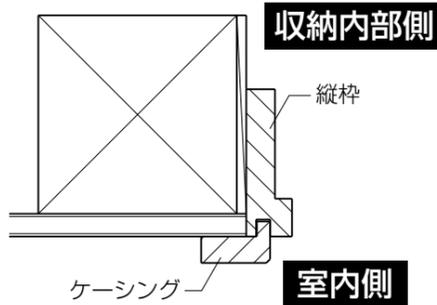
2 枠の取付け

●組立てた枠を開口部に入れます。ここでケーシングタイプの場合は、縦枠にケーシングを差込みます。

枠の固定位置を確認します。

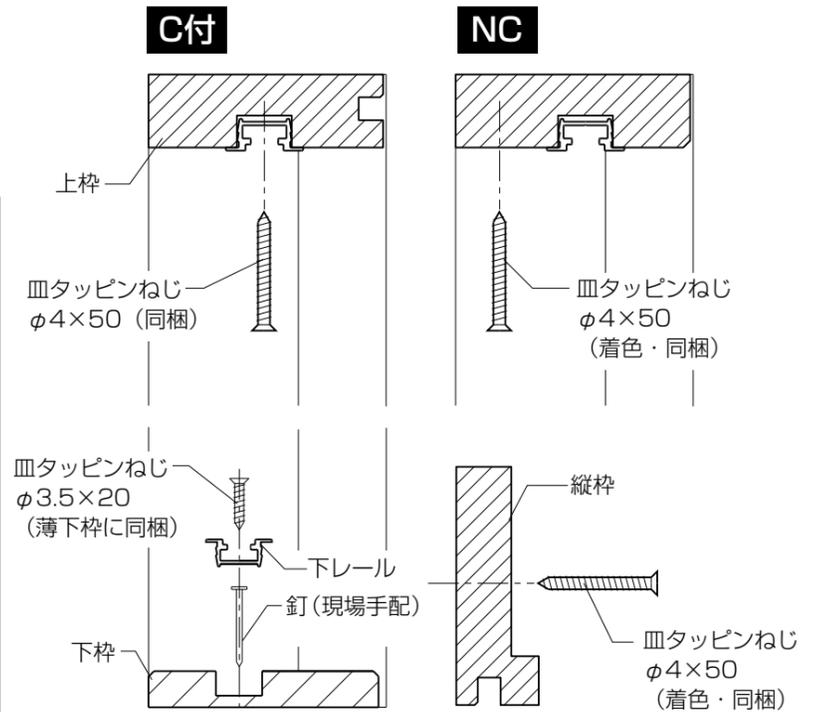
※ケーシングの足が短いため、後で調整することができません。このため、位置出しは確実に行ってください。

※ケーシングは、位置出しのためですから、固定はしないでください。



【薄下枠を使用する場合】

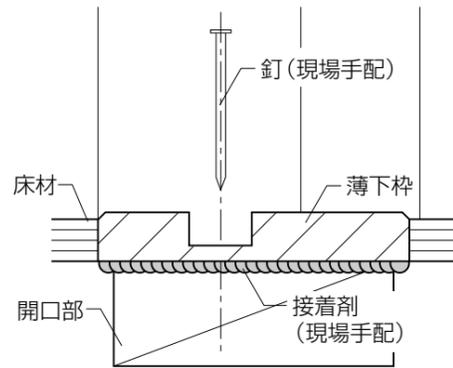
●上枠・下枠・縦枠を躯体開口部に固定します。その際、レールも合わせて固定します。



※皿タッピンねじの頭と縦枠が、面一になるまでねじをまわしてください。

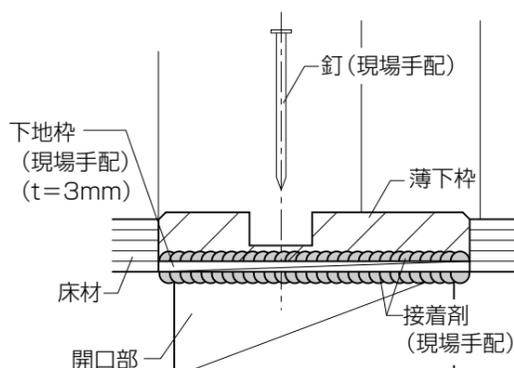
●床材厚さ12mm

※必ず薄下枠に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



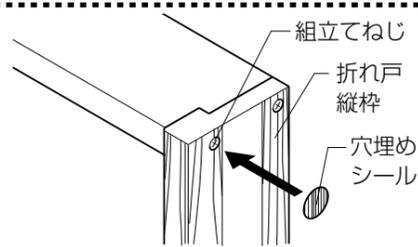
●床材厚さ15mm

※必ず薄下枠と下地材に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



【穴埋めシールの使用方法】

ノンケーシング枠において、折れ戸縦枠が、仕上げボード面よりも12mm以上出る場合に使用してください。右図のように、穴埋めシールの木目方向を合わせて、組立てねじ頭部に張ってください。



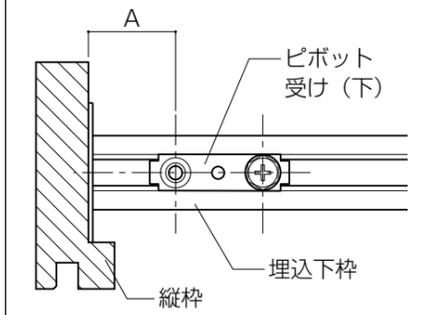
【埋込下枠を使用する場合】

①埋込下枠にピボット受けを差込み、下枠ピースを差し入れます。

※ピボット受けのナットが可動側へ向くようにしてください。(図-1)

ピボット受け(下)を下図の位置に合わせ、ボルトを+のドライバーで締め、固定してください。(本体の吊込み後、ボルトは再度緩め、建付け調整を行います。)

●ピボット固定位置



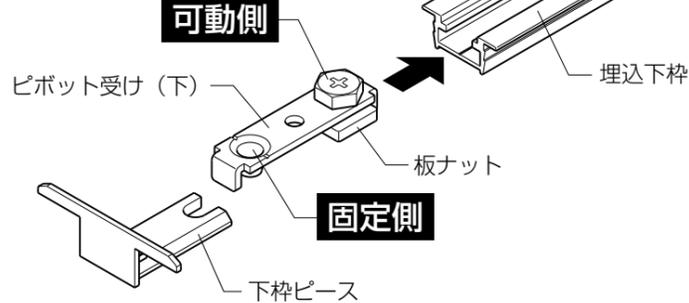
	A寸法
W12,13,16,18	32
上記以外の場合	31.5

②下枠ピースとピボット受け(下)が取付けた状態で床に埋め込みます。(図-2)

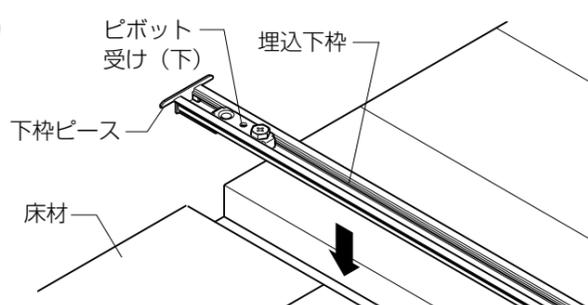
③(図-3)のように縦枠の段差部をピースにあて位置決めをし、上枠・縦枠を開口部に固定します。(図-4)

④埋込下枠をねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で固定します。(図-5)

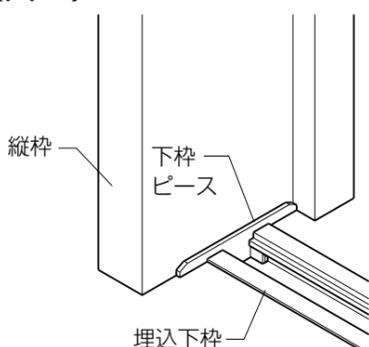
(図-1)



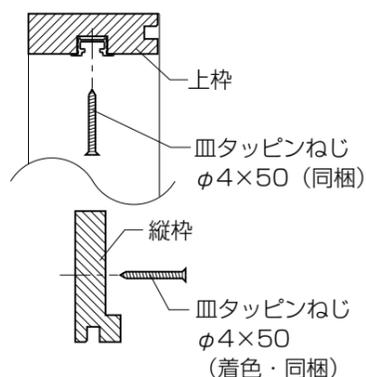
(図-2)



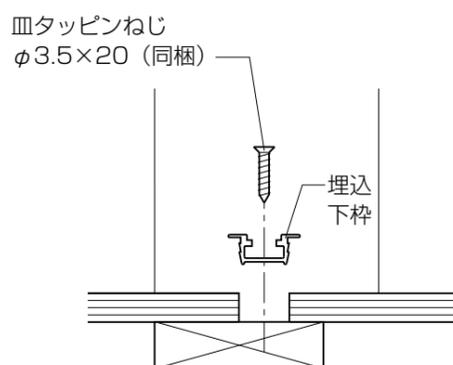
(図-3)



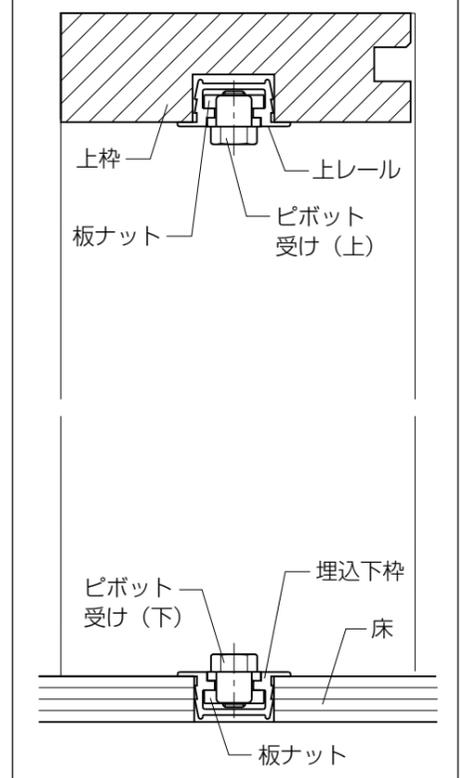
(図-4)



(図-5)

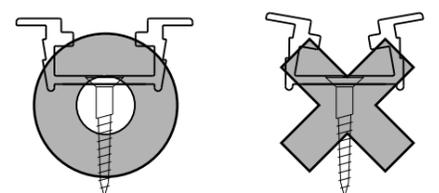


〈ピボット受け納まり〉



お願い

※埋込下枠を取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。下枠が変形し、本体扉開閉不具合の原因となります。

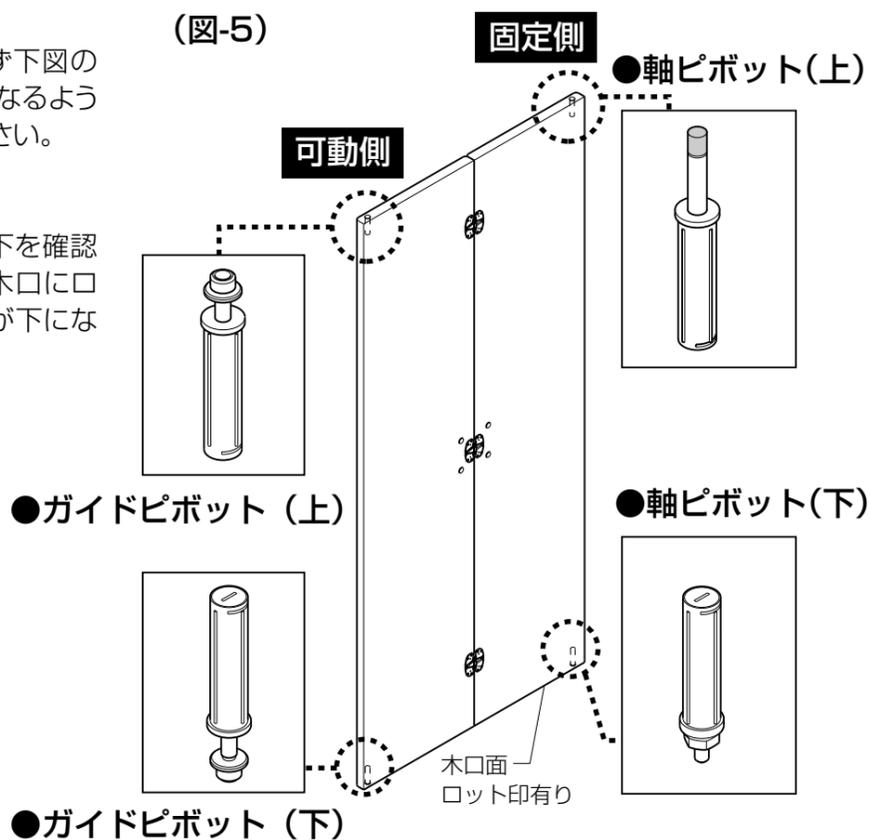


■本体の吊込み

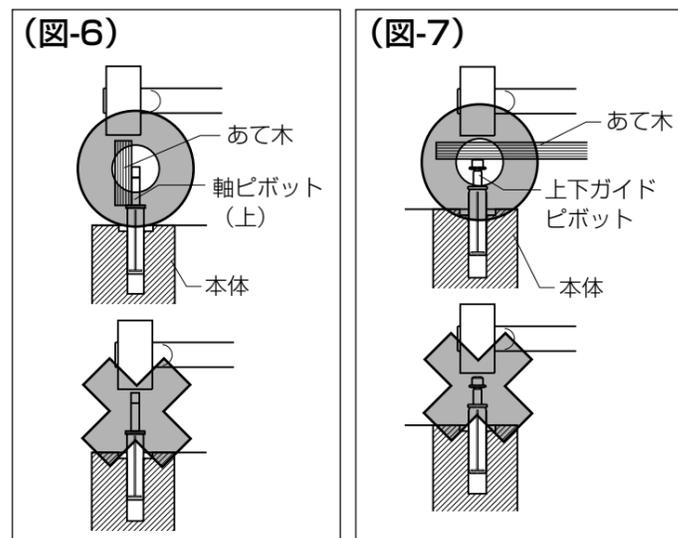
■本体の取付け

注1) ピボットは、必ず下図のような組合せになるように取付けてください。(図-5)

注2) 必ず本体の上下を確認してください。木口にロット印がある方が下になります。

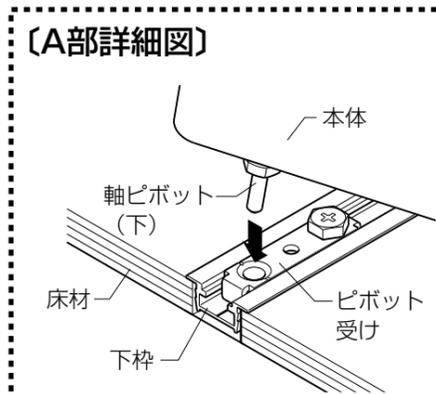
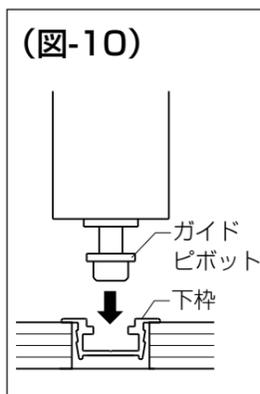
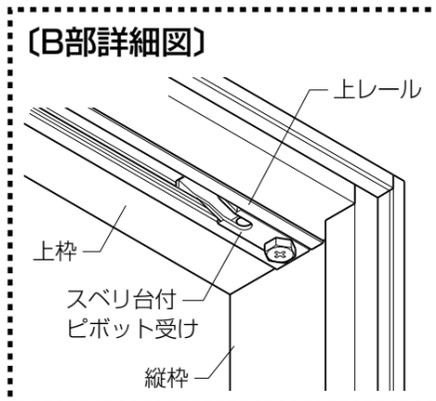
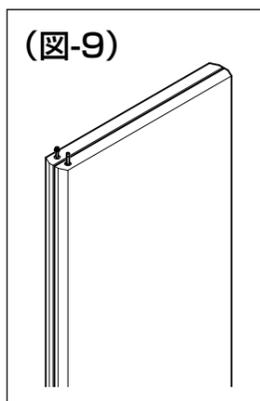
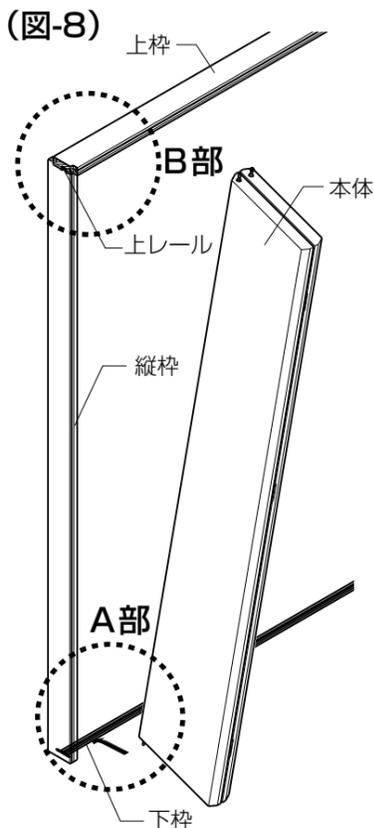


- ①軸ピボット(上)を本体の取付け穴に差し込みます。
※取り付ける際は、図のようにあて木を行い、ハンマーなどでたたき入れてください。軸をたたくとつぶれてしまいますので軸はたたかないでください。(図-6)
- ②ガイドピボット(上・下)及び軸ピボット(下)を扉の取付け穴に差し込みます。
※取付ける際は、図のようにあて木を行い、ハンマーなどでたたき入れてください。(図-7)

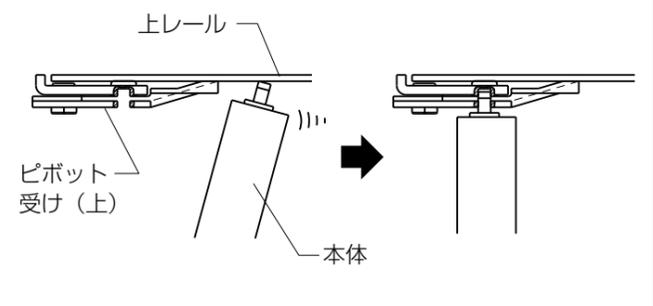


③本体を吊込みます。(図-8)

1. 図-9のように本体をたたんだ状態でガイドピボット(下)を下枠の溝に差し込みます。(図-10)
2. 下枠のピボット受けに軸ピボット(下)を差し込みます。(A部詳細図)
3. 軸ピボット(上)とガイドピボット(上)が上レールの溝に入るように本体を立てます。
4. 軸ピボット(上)がスベリ台付ピボット受けにはまる(『カチッ』と音がする)まで本体を立てます。(図-11)
5. もう片方の本体も同じ手順で吊込んでください。



■折れ戸本体取付け方法 (図-11)

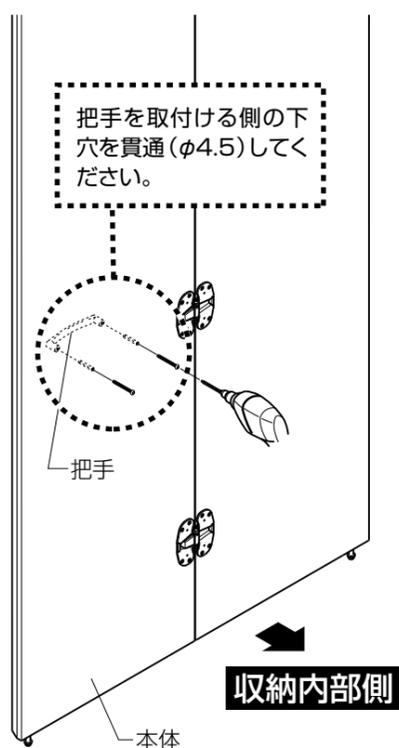
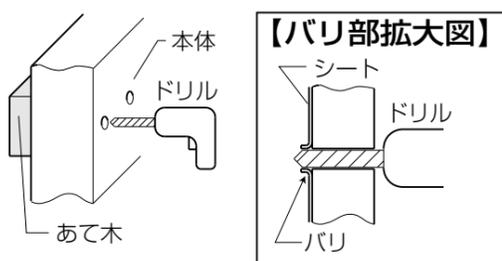


④把手を取付けます。

※2枚の本体の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。把手を取付ける側の本体の下穴を貫通(φ4.5)してください。(図-12)

■把手取付け時のお願い

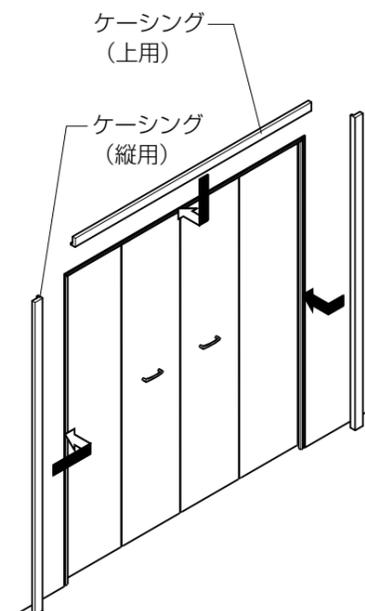
- 把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため本体表側に必ずあて木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。(多少のバリは把手の下に隠れます。)



■ケーシング材の取付け 【ケーシングタイプのみ】

※壁材・床材を仕上げからケーシング材を取付けてください。

- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。(上用ケーシングは枠に合わせてあらかじめカットしてあります。)
- ②枠のケーシング溝へケーシングを差し込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。
※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。



■建付け調整

本体の段違い及び左右のチリを調整します。

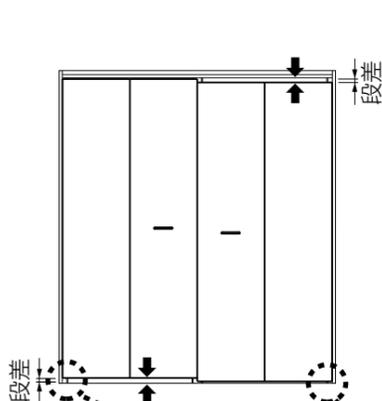
〈段違い(上・下)の調整〉

●本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合

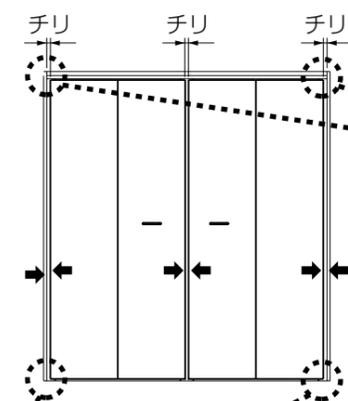
※下部ピボットの上下調整ボルトを回して調整します。

※上下調整量 薄下枠:±2mm 埋込下枠:±3mm(図-13)

(図-13)



(図-14)



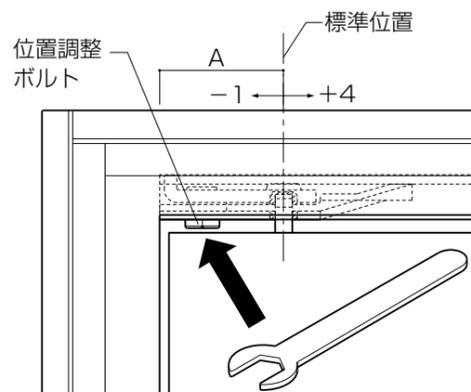
〈チリ(左・右)の調整〉

●図-14のように左右のチリが大きい場合

※上・下のピボット受座の位置調整ボルトを緩め、左右方向の調整をした後、ボルトを締付けます。(上ピボット受の左右調整量+4-1mm)

注:調整完了後、ピボット受けを同梱のスパナで本固定してください。(図-14)

※スパナで位置調整ボルトを緩めて移動させます。

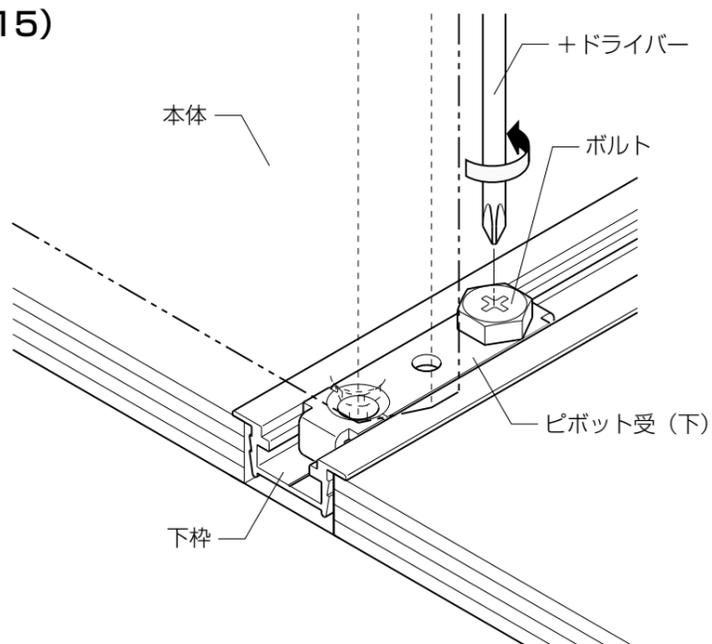


	A寸法
W12,13,16,18	32
上記以外の場合	31.5

■扉の外し方

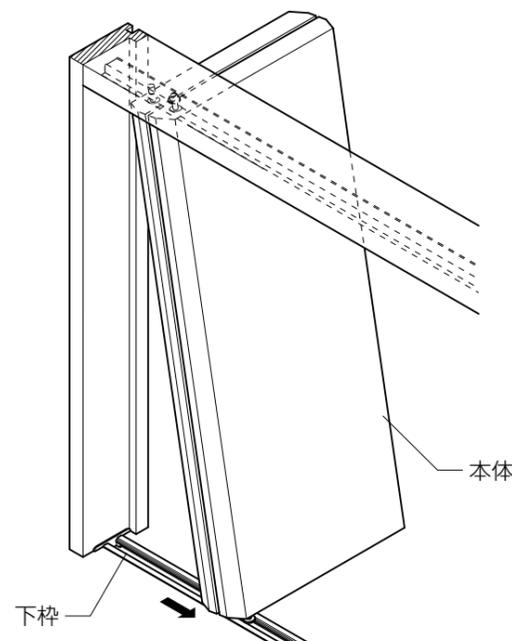
①ピボット受(下)のボルトを緩めます。

(図-15)



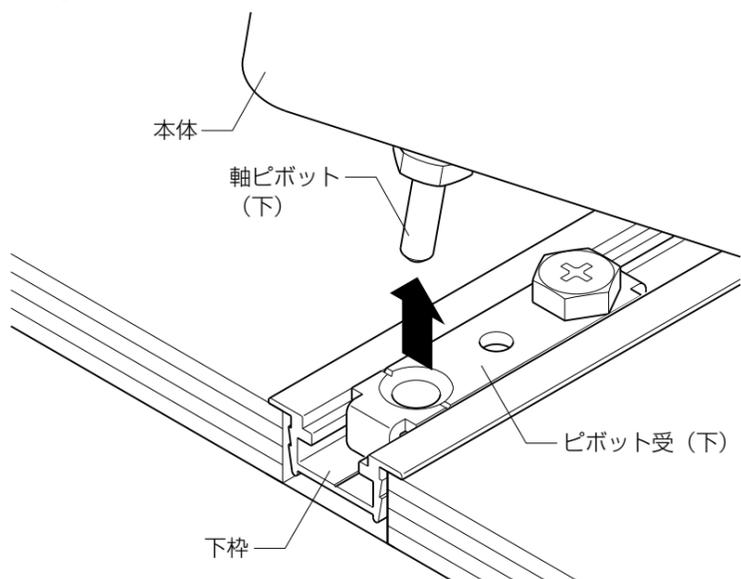
②本体を2枚そろえて、本体の下方をゆっくりとズラして傾けます。

(図-16)



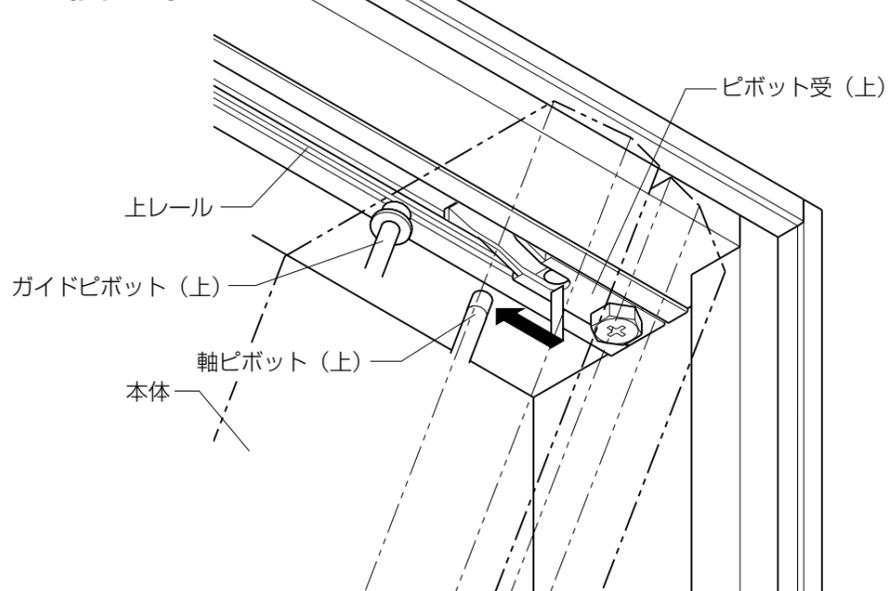
③本体を持ち上げ、軸ピボット(下)をピボット受(下)から外します。

(図-17)



④さらに本体を傾け、上側のピボットを上レール溝から外します。

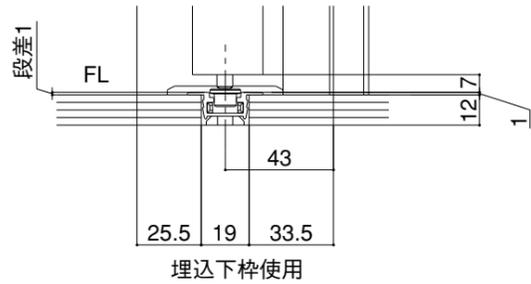
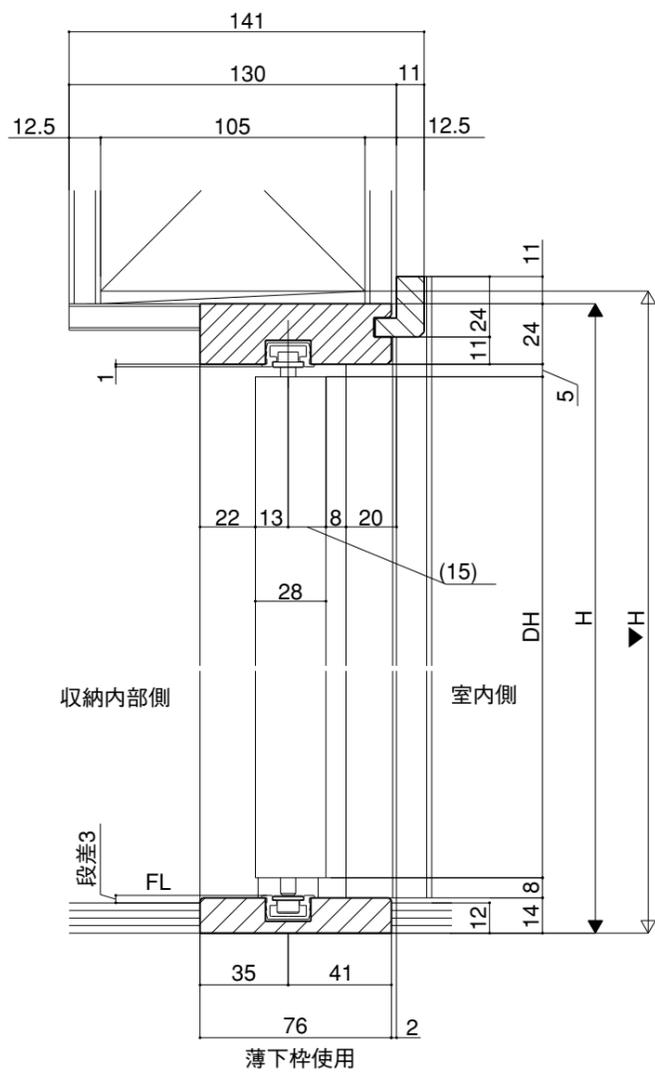
(図-18)



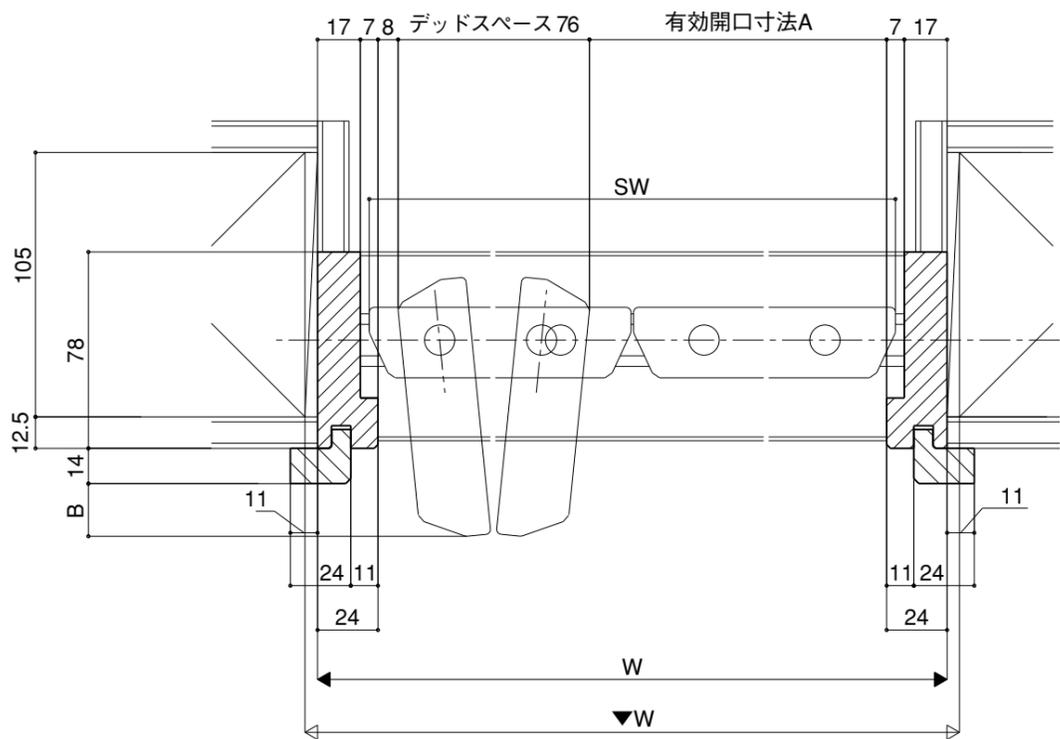
■納まり図

●折れ戸ユニット ピボットタイプ ケーシング付

縦断面図



横断面図



W呼称 (枠外寸法)	A寸法	B寸法
W07(734)	602	261
W08M(824)	692	306
W12(1183)	967	199.5
W13M(1323)	1107	234.5
W16(1643)	1427	314.5
W18M(1823)	1607	359.5

基本寸法 (mm)	W呼称	07	08M	12	13M	16	18M
	W	734	824	1183	1323	1643	1823
	H呼称	20	23				
	H	2035	2318				